

ネットで叶える子供たちの夢

土浦第一高等学校 2年 伊藤千紗 倉本優 船生野々花 室町和花

指導者：金井大貴教諭 猪越さゆり教諭 岡野峻平教諭

要旨

現在、私たちの身の回りではインターネット、SNS が急速に普及している。それらを用いて貧困を解決したいと考えた。具体的にはまず、日本で使用済みのタブレットやスマートフォンを集め、それをザンビアの学校に寄付する。その端末を使って現地の子供たちの趣味や夢などを SNS を通して発信する。その投稿を全世界の人々が閲覧し、その際に生じた広告料を現地の学校が得て、子供たちの夢の実現に役立てる。このように私たちは子供達の夢を応援することで貧困を解決する手助けをしようと考えた。

キーワード：SNS ツイッター 貧困 ザンビア 広告収入

Making Children's Dreams Come True

Abstract

These days, social media are used all over the world. Our plan is to reduce poverty by using social media. Our plan is to collect used smartphones and tablets and send them to selected schools in Zambia. The students in Zambian schools use social media like Twitter, and write posts about their hobbies and dreams. People who use the Internet around the world see these posts. Money from advertising on social media is given to students. In this way, we want to reduce poverty by supporting children's dream.

Keywords: social media, Twitter, poverty, Zambia, advertisement

はじめに

世界には十分な飲み水や食料が得られず、清潔な環境で生活できず、学校で教育が受けられない子供たちが多くいる。貧困を金銭的に支援する団体は多くあるが、実際にそれらのお金が本当に必要な人々のもとに届いているのかは確かではない。私たちはこのような現状を受けて、貧困を私たちの手で解決したいと考えた。また、私たちの身の回りには貧困地域に関する情報で溢れている。テレビでドキュメンタリー番組が放送されたり、インターネットに貧困に関する記事が載っていたりする。しかし、その情報がどこまで正しいのかはわからない。正しい情報を入手できるようにすることで、私たちは貧困の本当の現状を知ることができ、適切な支援をすることができると思う。

仮説

- ① ネット環境が整っていない地域の村に 1 台パソコンなどの電子機器を設置する。
 - ② 現地の人々が情報を発信する。(YouTube、Twitter など)
 - ③ 世界中のインターネットユーザーがその情報を見る。
 - ④ 広告料で貧困地域の人々が直接お金を得る。
- 私たちはこの仮説を確かめるため、世界中の人々が使っている SNS、ボランティアや寄付に対する意識を知りたいと思い、以下の調査を行った。

調査

2017 年 8 月 15 日～8 月 22 日にかけて、海外フィールドワークオーストラリア、東南アジア、アメリカの 3 方向に分かれて

街頭アンケートを実施した。また、東南アジアでは現地の JICA の方にお話をお聞きした。

〈質問内容〉

- ①使用済みのパソコンを寄付したことがありますか。また、寄付したいと思いますか。
- ②何の SNS アプリを使っていますか。
- ③今までに発展途上国支援に参加したことはありますか。(募金も含む)
- ④もし発展途上国を支援する SNS アカウントがあったら閲覧したいですか。

また、10/17 に関われた、筑波銀行相談会、11/9 の筑波大学坂戸発表会、12/23 の立教大学課題研究発表会でプレゼンテーションを行い、12/25 に JICA 筑波を訪問し、私たちのプランに関する話を外国人の方や他校の生徒、先生方に聞いてもらい、アドバイスをいただいた。

調査結果

◎海外フィールドワーク

- ①使用済みのパソコンを寄付したことがありますか。また、寄付したいと思いますか。

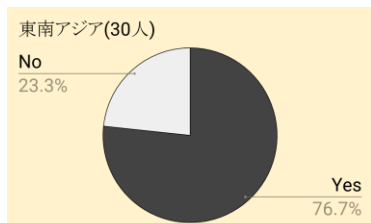


図 1

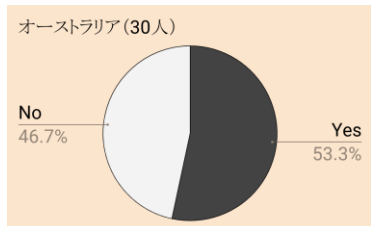


図 2

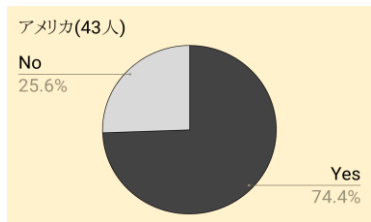


図 3

このように各方面少なくとも半数はパソコンの寄付に対して肯定的な人が多いとわかった。一方で、タブレット端末やスマートフォンの方が今日持っている人が多いことがわかり、買い替え

などによって発生したそれらの不用品はより寄付されやすいと考えた。

- ②何の SNS アプリを使っていますか。(複数回答)

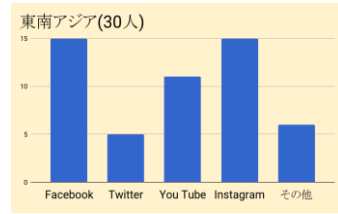


図 4

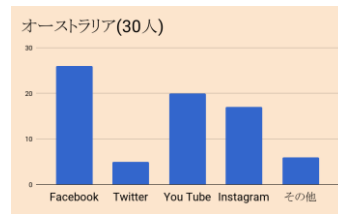


図 5

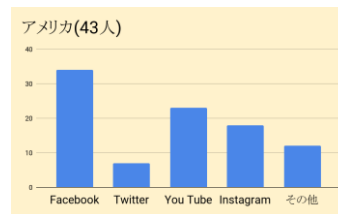


図 6

日本ではツイッターが SNS の中でも主流だが、海外ではそうではなかった。フェイスブックが各方面で最も使われていると分かった。

- ③今までに発展途上国支援に参加したことはありますか。(募金も含む)

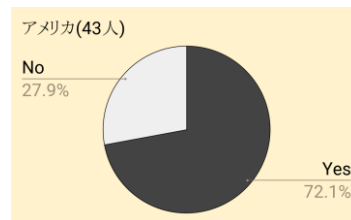


図 7

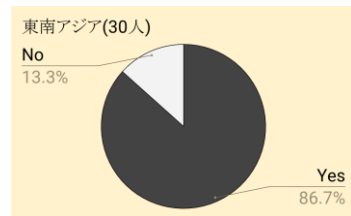


図 8

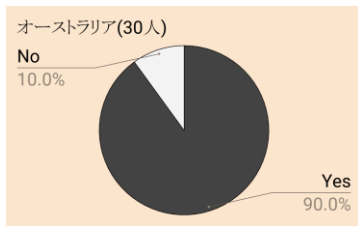


図9

参加したことのあつた人のほとんどが募金や寄付をすることで参加していた。

④もし発展途上国を支援する SNS アカウントがあつたら閲覧したいですか。

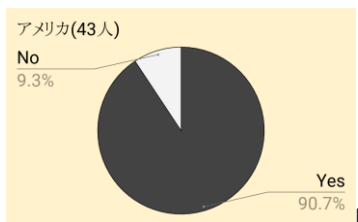


図10

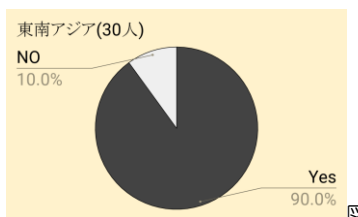


図11

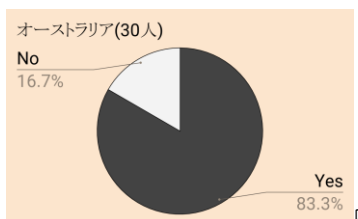


図12

グラフから分かるように、途上国の子供達の事を発信するアカウントがあつた場合、閲覧数を稼ぐことは可能だと言える。

◎11/17 に開かれた筑波銀行相談会では以下のことがわかつた。

一つ目に、情報を見るターゲットが世界中の人々からより具体的に絞つた方がよい。なぜなら、全体に向けて広く発信するよりも、ある程度対象を絞って投稿する方が共通点を持った人たちによく広まるからだ。そこで、全世代を対象にするより、若者をターゲットにして情報発信を行うことにした。

二つ目に、投稿の内容をより具体的にすべきだとわかつた。

三つ目に、広告を出す企業に利益が必要である。企業の利益のために、見た人が買うような商品を宣伝したり、宣伝方法を工夫する必要があると考えた。

四つ目に、故障した場合の対処法を考えるべきである。このた

め、現地にも協力者が必要だと感じた。

◎11/9 に行われた筑波大学坂戸発表会にて、筑波大学坂戸高校の先生のお話で、以下のことがわかつた。

一つ目に、現地の生活の大変さのような暗い内容ではなく、明るい内容にした方がより閲覧数が多くなると考えられた。そこで、現地の子どもたちの趣味や夢などを発信することに決めた。

二つ目に、治安が悪くてタブレットを盗まれてしまう可能性があることがわかつた。この課題を解決するために、学校にタブレットを置くことで安全性を高めることにした。

三つ目に、貧しい国の人々は読み書きの能力を持っていないことがわかつた。この問題も、学校で私たちのプランを行うことで、現地の教育で読み書きを習得することで解決できると考えた。

四つ目に、ザンビアという国ではインターネットは使えるが、パソコンやタブレットなどの機器が不足していることがわかつた。ザンビアでこのプランを実行することにした。

◎12/23 に行われた立教大学課題研究発表会では以下のことがわかつた。

閲覧数を増やす方法が必要である。また、学校に通っていない子供も発信できるようにするとより良いと感じた。

◎12/26 に JICA 筑波を訪問し、職員の方や日本に実習生として来ている方にお話を伺い、以下のことがわかつた。

一つ目にもっとザンビアの情報を集めるべきである。プランを実施する国のことを詳しく知るべきだとわかつた。

二つ目に、お金の使い道を具体的にすべきである。そこで具体的なお金の使い道として、学校に寄付し、授業料を削減、給食や文具の無償化など、1 人でも多くの子どもたちが学校に通えるような支援に充てることにした。

課題点

私たちのプランには以下の課題点があり、プランの実現にはこれらの解決が必要である。

一つ目に、大きな利益を生むには長い期間がかかる。仮説ではあるが、クリック型の広告を投稿するとして、1 ヶ月に 200 クリックがあるとすると、一回のクリックが 60 円だとすると、1 ヶ月で 12,000 円の利益が生じる。一年間では 144,000 円の利益だ。しかし、タブレット端末やスマートフォンの輸送費が

100,000円かかる。また、電気代が1年間で、日本では4000円だが、発展途上国であるザンビアは、電気代が高いとさまざまな人から指摘されたため、40,000円かかると考える。以上のことから、一年間で子供達が得られるお金は4000円である。

二つ目に、広告収入を得る前に現地で電子機器の設備を整えるために資金が必要である。

三つ目に、協力してくれるスポンサーが限られている。

結論

私たちはザンビアの学校を支援したいと考えた。筑波大学坂戸発表会でザンビアの支援をしたことがある教員の方にお話を伺うことができ、ザンビアの学校の詳しい様子を知ることができたからだ。

プランの手順としてはまず、日本で使用済みのタブレット端末やスマートフォンを集める。それらは使用済みのものを寄付によって集めるので、お金をかけずに集めることができる。それを学校に寄付する。タブレット端末やスマートフォンを各教室に置いてもらい、SNSのアカウントを作ってもらい、各教室に設置するのは、学校という比較的安全な場所で保管するため、また、子供達がより投稿しやすくするためである。そのアカウントからザンビアの子供たちの趣味や夢などの明るい内容を投稿として世界中の若いネットユーザーに向けて発信する。これは、現代は若い人々を中心にインターネットが普及しているためである。日本におけるスマートフォンの普及率は72%であり、日本人の多くがスマートフォンを所有し、インターネットを利用していることがわかる。

そして、その投稿の閲覧数に応じて広告料を発生させる。発生した広告料を発信元の学校が得て、子供たちの夢の実現に役立ててもらおう。

今後はSNSで広告宣伝を行っている企業や発展途上国で支援活動を行っている団体にインタビューを行い、私たちのプランに協力してくれるかなどを尋ねたい。

謝辞

今回の課題研究にあたって様々な方々にご協力いただいた。以下の方々にこの場をお借りして謝辞を申し上げます。
マレーシア、シンガポール、アメリカ、オーストラリアでインタ

ビューに答えてくださった皆様 JICA 筑波 一同様

参考文献

石崎秀穂『もっと人と金が集まるブログの秘伝書』(C&R 研究所 2005年) 114頁~139頁

伊藤元亮『YouTubeは僕たち家族の日常をお金に換えてくれました』(徳間書店 2013年) 42頁~46頁

総務省 インターネットの普及状況 2018年3月1日

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/html/nc252110.html>